令和5年度　大館市立田代中学校　学校評価書（前期・年度）

A　学校教育目標

ふるさとに誇りをもち、今と未来を幸せに生き抜く生徒の育成　～共生　凡事徹底　挑戦～

B　生徒会テーマ

Happiness　Charge　～112人の幸せのカタチ～

C　本年度の重点目標

1　未来大館市民の育成のために全教育活動を通して人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力及び自己有用感・自尊感情を育てる。
2　地域社会と関わる学習を通して、ふるさとへの誇りや志をもって自らの生き方について考えることができる生徒を育む。
3　地域貢献活動や地域との協働活動等を通して学校と地域の協働体制を構築し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。

D　本年度の経営方針

基本姿勢　「目的」と「手段」を明確にした教育活動の展開

全教育活動を通して育成を目指す資質・能力

1　JAKSを基盤とした人間的基礎力　よりよく生きるための基本的な生活習慣、人間性や社会性を身に付ける
2　主体的実践力　自ら課題を見つけ、考え、判断し、よりよく行動する
3　共感的協働力　相手を尊重する　仲間と力を合わせて考え、創造する
4　自己有用感・自尊感情　互いに認め合う、自分のよさや可能性を知る、周りに貢献する

未来につながる確かな学力の育成

資質・能力を身に付けるために「見方・考え方」を働かせて学びを深める授業
～教科等の本質を外さない、共感的・協働的な学び合いの充実～

※見方・考え方とは…課題を解決するための鍵となる「視点」や「考え方」

Ⅰ　見方・考え方を明確にした授業構想
Ⅱ　共感的・協働的に学び合う授業の充実　樹林タイムD（考えを出し合う）樹林タイムF（考えを深める、広げる）
Ⅲ　学びの質を高めるためのICT活用の推進と個に応じた指導の充実（ＴＴ・少人数指導）
Ⅳ　ＰＤＣＡサイクルを生かした校内研究の充実

未来につながる豊かな人間性と社会性の育成

Ⅰ　ＪＡＫＳを基盤とした人間的基礎力の育成
Ⅱ　主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情の育成
Ⅲ　全ての教育活動を通して行う道徳教育の充実
Ⅳ　いじめ・不登校の未然防止と自立支援のための組織的対応

ふるさとへの誇りや自立の気概を育み、未来につながる「ふるさとキャリア教育」の充実

Ⅰ　郷土愛の醸成と地域貢献力を育む体験活動
Ⅱ　地域のひと、もの、ことと関わる体験・交流活動
Ⅲ　望ましい職業観や勤労観を育む体験活動
Ⅳ　社会における役割や将来の生き方を学ぶ活動
Ⅴ　田代地域学校協働支援チームでの連携・協働

【 たけのこ祭り　田っ中ソーラン 】

【激励会　団長から自作の六千羽の鶴の贈呈】

ア 生徒の状況	自己評価Aと外部評価の評価区分	自己評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅰ　自主的・自律的な生活

生徒の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
明るく心のこもった挨拶をし規律ある落ち着いた生活を送りながら主体的実践力を育もうとしている。 互いに認め合い、協力し合いながら安心した学校生活を送り、豊かな人間性を育もうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	体育祭での田っ中ソーランなど、行事を通じてお互いに認め合い、所属感や連帯感を高めつつ全校が一丸となって取り組んでいる。昨年度は地域でのあいさつが課題だったが、今年度は礼節も含め改善されている。マスク生活の影響が残る生徒もいるだろうが、今後もより元気なあいさつができるように期待している。
	年度			

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

「時や場に応じた挨拶、言葉遣い」について、90%以上の生徒が肯定的な回答（4と3の合計）をしている。挨拶や言葉遣いができている基準を生徒と再確認し、更に質を高めていきたい。7月頃、聴く姿勢が以前よりも低下している状況であり、それが生徒の意識としてアンケート結果にも表れている。風紀委員会や学習委員会の活動を生かしながら授業等を通して傾聴して反応する力を更に高めていきたい。「友達や先生が自分を認めてくれる」という思いを高めるために、生徒同士が互いの頑張りを称える場や教師が称揚する場を更に増やすとともに、継続した指導や支援を行っていきたい。

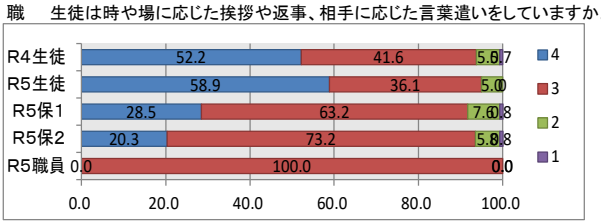
生徒会活動や学校行事への取組の過程で、上級生が積極的にリーダーシップをとりながら、縦割りの機能を生かしてより充実した活動にすることができた。アンケートからも体育祭などへの取組を通して自己有用感や自尊感情の醸成につながったので、今後も継続していきたい。また、生徒会活動では、学校祭への取組を起点に、更に自主的な活動となるように生徒会テーマ「Happiness　Charge～112人の幸せのカタチ～」を強く意識させながら、生徒の自治的な意識を高めていきたい。

【年度（→次年度）】【成果】

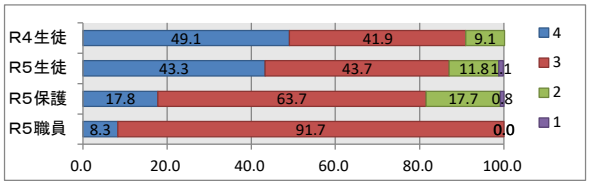
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		自己評価B 後期	
1　JAKS：基本的な生活習慣の確立 TPO：人間的基礎力、共感的協働力の育成	(1)基本的な生活習慣の確立（時間管理、挨拶・言葉遣い、聴く・姿勢、整理整頓）	・樹林ノートを活用した見通しのある生活、風紀委員会による推進活動 ・時と場に応じた挨拶、人の話に傾聴する姿勢や態度の向上→（凡事徹底）	3	3		
	(2)生徒理解とよさを伸ばす関わりによる自己有用感・自尊感情の醸成	・学級、生徒会活動の見届け、称揚と生徒同士が認め合う場の設定→（共生） ・アセス、いじめ調査等のデータを活用・共有した生徒支援	3			
	(3)目標の設定と振り返りによる主体的実践力、共感的協働力の育成	・樹林ノート等を活用した、学期や長期休業の目標設定と振り返り→（挑戦） ・目標の実現に向けた、共感的・協働的に高め合う場の設定	4			
2　共感的風土の中での活気ある個と一体感のある集団づくり	(4)互いに支え合う個・集団づくり ・学年、学級経営、学級活動	・学年委員会の機能を生かした学年集会の計画と実施 ・学校行事に向けた目標設定及び事後の活動の振り返りの場の保障と価値付け （ポートフォリオ、樹林ノート、キャリアパスポート、キャリアノート）	3	3		
	(5)主体的実践力・共感的協働力の育成と学校生活の向上 ・生徒会活動（執行部、専門委員会）	・生徒会テーマに基づいた日常活動の工夫 ・学校生活の向上を目指すための生徒会活動の充実 ・地域と積極的に関わる活動の充実	3			
	(6)共感的・協働的活動による所属感、連帯感、自己有用感の醸成 ・体育祭（田っ中ソーラン、応援合戦）、学校祭（合唱コンクール、学年発表）、地区ボランティア（夏・冬）	・全校が一丸となって、活気をもって取り組めるような行事の計画、実践 ・縦割りの機能を生かした一体感のある活動（体育祭、地区ボランティア等）	4			

（主なデータ）　生→生徒　保→保護者　職→職員　　4…そう思う　3…ややそう思う　2…あまりそう思わない　1…そう思わない

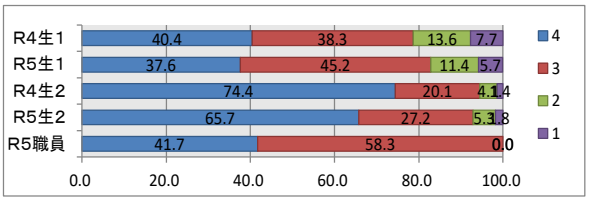
生　時や場に応じた挨拶や返事、相手に応じた言葉遣いをしていますか。
保1　お子さんは、学校や地域、部活動で好ましい挨拶ができていると思われますか。
保2　お子さんは、場や相手に応じた言葉遣いができていると思われますか。
職　生徒は時や場に応じた挨拶や返事、相手に応じた言葉遣いをしていますか。



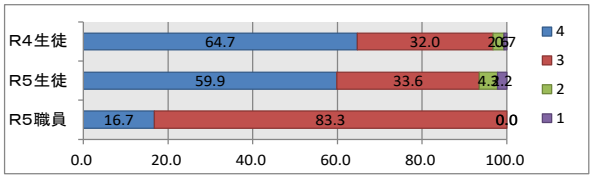
生　友達の発表や先生の話は話し手を見て反応しながら聞いていますか。
保　お子さんは、学校で教師や友達の話をしっかりと聞いていると思われますか。
職　生徒は、話し手を見て反応しながら共感的に聴いていますか。



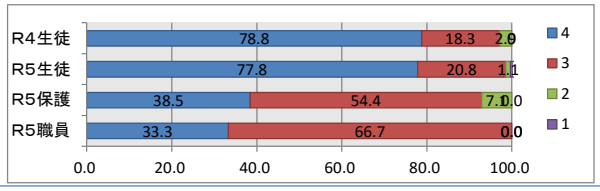
生1　自分にはよいところがあると思いますか。
生2　友達や先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。
職　生徒のよいところを認めるなど、自己有用感を高めることができるように指導していますか。



生　友達と互いに認め合い、協力し合いながら向上することができていますか。
職　互いに認め合いながら協力し合うことができるように指導していますか。



生　学校行事では集団の一員として積極的に参加し、達成感を味わうことができましたか。
保　学校は、学校行事や諸活動で生徒に活躍の場を与えていると思われますか。
職　行事等に向けて集団の一員として積極的に活動し達成感をもつことができるように指導していますか。



■データから見える成果と課題

1「時や場に応じた挨拶、言葉遣い」について、昨年度よりも4の段階が増え、90%以上の生徒が肯定的な回答（4と3の合計）をしている。一方、聞くことについては、昨年度に比べて肯定的な回答が減少した。学習委員会の活動を生かしながら授業等を通して傾聴して反応する力を更に高めていきたい。

2「自分にはよいところがある」について、肯定的な回答の割合が、ここ数年増加傾向にある（R3　67.6%→R4　78.7%→R5　82.8%）。各行事や毎日の諸活動を通して、生徒が活躍できる場や自分の成長を振り返る活動を積み重ねることが自尊感情の醸成に結び付いてきていると考える。生徒の頑張りを称揚する場を更に増やすとともに、継続した指導や支援を行っていきたい。

3「学校行事での達成感」について、98.6%の生徒が肯定的な回答をしている。同学年や異学年など、多様な集団での活動が、生徒の主体性やリーダーシップ、責任感や協調性などを高め、自己有用感の醸成に結び付いていると考える。

ア 生徒の状況	自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
		きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
		良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
		おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
		やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
		努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅱ　思いやりの心・たくましい心

生徒の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
集団や社会における人間関係の形成と、よりよく生きるための考えを深め、自己実現を図ろうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	学校が楽しいと感じている生徒が多いことは何よりである。ふるさとキャリア教育がしっかり根付いてきていると感じるが、生徒と保護者の意識には乖離がみられる。保護者がふるさとキャリア教育を受けた世代でないことが影響しているか。教職員の評価が厳しいが、自らの仕事に厳しい表れだととらえている。
	年度			

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

道徳教育全体計画別葉について、昨年度のものをベースに、より生徒の実態に即したものに内容を改善し、活用している。定期的に内容の確認を行いながら、全職員で意図的・計画的な道徳教育の充実を図っている。道徳科の指導においても、道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合っていけるような授業づくりに取り組んでいる。

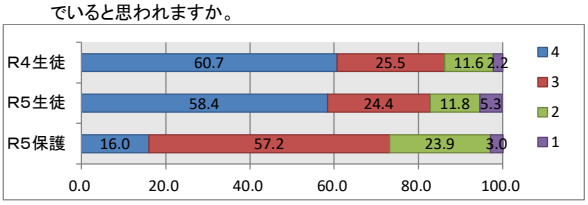
ふるさととの関わりについては、肯定的に捉えている生徒が多いが、昨年に比べて4の回答の割合が減少しているので、改めて地区ボランティアやふるさとキャリア教育の目的や意義を問いかけながら、より実践的な活動になるようにしていきたい。そのために、今後の活動について生徒の主体性を生かせるように、計画の立案や目標設定、振り返りのサイクルを積み重ねていきたい。また、田代中学校ならではの「異学年交流のよさ」も生かしながら、上級生のリーダーシップを醸成していきたい。

【年度（→次年度）】

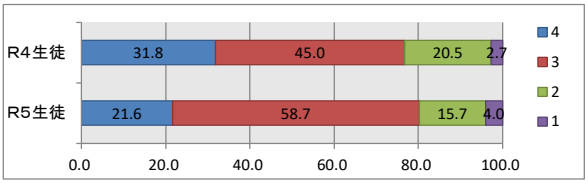
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		自己評価B 後期	
3 よさの伸長と豊かな心と自立心	(7)自他を認め、互いに協力し合う生徒の育成 ・教育活動全体を通じた道徳教育と「考え、議論する道徳」の充実	・学校と学年の重点目標を位置付けた計画と実践（道徳教育全体計画別葉の活用） ・創意工夫を生かした教育活動と関連付けた道徳の実践 ・道徳集会（全校生徒で「考え、議論する」場）の設定	3	3		
	(8)ふるさとを愛し、積極的に交流・貢献する生徒の育成 ・職場見学、地域訪問、職場体験、キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動等	・職場見学、地域訪問、職場体験の充実 ・キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動などを通した郷土愛の醸成 ・ボランティア活動、地域行事、子どもハローワークへの参加の推進 ・活動の振り返りの設定と価値付け（ポートフォリオ、樹林N、特活F、キャリアパスポート、キャリアノート）	3			

（主なデータ）

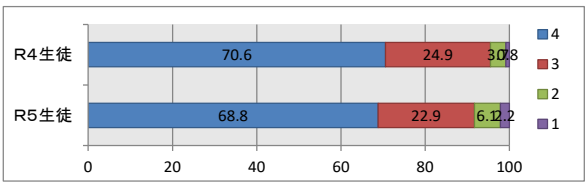
生　夢や目標をもって生活をしていますか。
保　お子さんは、学校での学習や生活において目標をもって取り組んでいると思われますか。



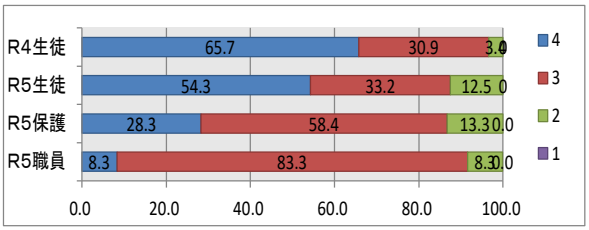
生　難しいことでも失敗や間違いを恐れないで挑戦していていますか。



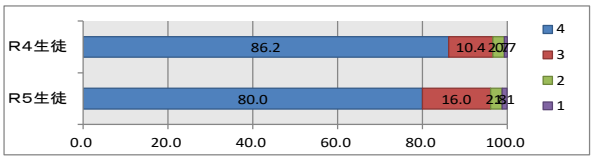
生　学校が楽しいですか。



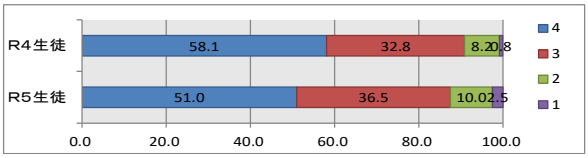
生　ふるさとキャリア教育を通して、地域のよさを感じたり、自分の生き方について考えたりしていますか。
保　お子さんは、ふるさとキャリア教育を通して地域のよさを感じたり、自分の生き方について考えたりしていると思われますか。
職　ふるさとキャリア教育の理念を生かした教育活動を推進していますか。



生　人の役に立つ人間になりたいですか。



生　地域活性化のために地域行事やボランティア活動に積極的に参加していますか。又は参加したいですか。



【十ノ瀬藤の郷】いしころ合同会社

【職場見学　田代製作所】

【職場体験】

【地区ボランティア】

■データから見える成果と課題

1 「難しいことへの挑戦」について、80%以上の生徒が肯定的な回答をしている。1や2の段階を3や4に増やしていけるよう、失敗が許される雰囲気や、再チャレンジできる場をつくるなどの手立てや支援を工夫していきたい。

2 「学校が楽しい」「人の役に立ちたい」について、90%以上の生徒が肯定的な回答をしている。「共生、凡事徹底、挑戦」を意識した学校生活を送り、様々な活動を通してよりよく生きるために必要なことについて考え、実践できるような道徳教育の充実を図っていきたい。

3 「ふるさとキャリア教育や地域貢献」について、肯定的に捉えている生徒が多いが、昨年度に比べて4の段階の回答が減少している。生徒がそれぞれの活動の目的を理解した上で取り組めるよう、十分な事前指導を行うとともに、活動後の振り返りを通して自己の成長やふるさとへの思いを深めることができるような指導を工夫していきたい。

ア 生徒の状況					
自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅲ　基礎学力

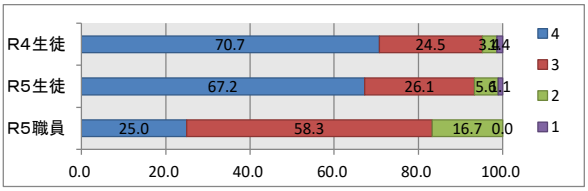
生徒の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、共感的･協働的な学び合いを通して「おおだて型学力」を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	授業を見合う会（樹林ツアー）や授業での学び合い（樹林タイム）など、意欲的な取り組みが見られる。学習が苦手な生徒も前向きに取り組んでいる様子をヒアリングから知ることができた。学習委員会の日常活動が、生徒自らがとらえた課題をもとに学習目標を設定していることも素晴らしい取り組みである。
	年度			

自己評価の概要と学校の改善策	
	【前期（→年度）】 年度初めの授業での学び方に関わる学習オリエンテーションのほか、学習委員会による日常の活動（自分の学級の実態を捉え、そこから浮かび上がった課題をもとに必要感のある学習目標を設定）を通して、基本的学習習慣の改善とレベルアップを図っている。学習の見通しをもつことや、学び合いの充実、学習の振り返りについて、4の解答の割合が昨年度よりも減少している。この3点について、生徒主体の学習集会を通して強く呼びかけ、改善を図る。「研究主題に基づく授業改善」についての肯定的回答が昨年度と変わらないが、4の回答の割合が減少している。教員が足並みを揃えて授業での共通実践を大切にしながら、授業を見合う会「樹林ツアー」や校内研修会、授業研究会等を通して、課題意識を高める導入や効果的な学び合い（樹林タイムD･F）、発問や指示、個に応じた指導、振り返りの充実等の工夫改善に努め、基礎的･基本的な内容の確実な定着を図りたい。また、授業のねらいを達成させるためのICTの活用がなされているので、今後も引き続き活用して個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に努める。
	【年度（→次年度）】

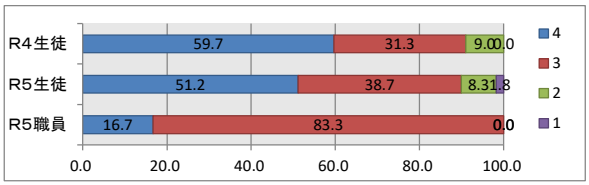
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		自己評価B 後期	
4　一体感と活気のある学習活動	(9)基本的な学習習慣の確立と主体的な学習の充実	･「田代中学習の約束」を基盤とした基礎･基本の定着 ･学習、ICTオリエンテーションによる生徒の学習意欲の向上と授業を見合う会（樹林ツアー）、研究授業等による授業改善 ･学習委員会による学習状況の評価と課題改善に向けた活動の充実	3	3		
5　授業改善への取組	(10)生徒一人一人が自分の考えをもち、共感的･協働的に課題を追究する授業実践	･各教科で働かせる「見方･考え方」や育む資質･能力を明確にした単元（題材）構想と授業デザインの工夫 ･学び合いの時間「樹林タイムD･F」の実施と教師のコーディネート ･自己の変容や学びを自覚させるためのつながりを意識した振り返り	3			
6　諸検査の分析と活用	(11)学習状況調査等の分析と指導方法の改善	･各種テストの分析と適切な回復指導 ･形成的評価を生かした学習状況の把握と回復指導	3			
7　教職員の研修	(12)研修及び授業研究会を通した指導力の向上	･校内研修会（ICT、夏季、冬季）の充実 ･教科を越えて全員で研修する指導案検討会と授業研究会 ･毎月１回「授業を見合う時間」（樹林ツアー）の設定	3			

（主なデータ）

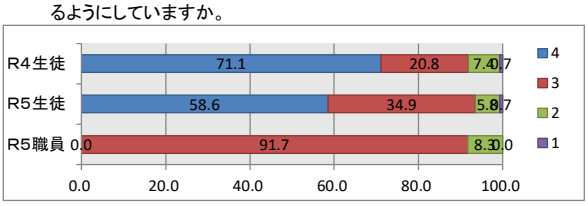
生　授業では学習課題やめあてを立てて取り組んでいますか。
職　必要感のある学習課題･めあてを提示し、ゴールや解決の方法に対する見通しをもたせていますか。



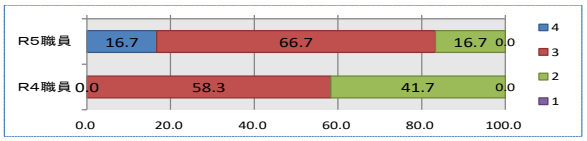
生　授業や集会などでは、ペアやグループなどでの学び合い（樹林タイムD／F）を通して考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
職　ペアやグループ、全体等の学び合いの場（樹林タイムD/F）を設定し、考えを深めたり、広げたりすることができるように視点（目的、資料等）を示したり、発問を工夫したりするなどしてコーディネートしていますか。



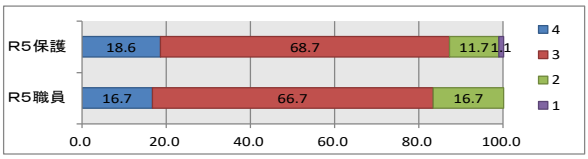
生　授業では、学習課題･めあてに沿ってまとめをし、振り返りをすることができていますか。
職　学習課題･めあてを踏まえ、視点（つながり）に沿った振り返りを行い、次の学習への意欲や見通し、学びの意義や価値を実感できるようにしていますか。



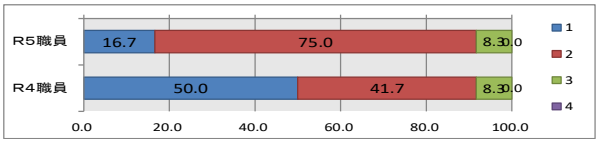
職　諸検査の結果を指導に生かしていますか。（課題に応じた回復プリント、練習問題等での指導）



保　学校は、少人数学習、ティームティーチング、個別指導など、生徒の学力向上のための工夫をしていると思われますか。
職　個に応じた指導、学習相談日、単元の評価問題等の補充的指導を充実させ、学習状況を改善していますか。



職　研究主題に基づく授業改善に取り組んでいますか。



【学び合い（樹林タイム）】

【教職員による授業を見合う樹林ツアー】

■データから見える成果と課題

1　授業での学び方に関わる学習オリエンテーションや学習委員会による日常の活動が、生徒の基本的学習習慣の確立に結び付いている。成果と課題を踏まえた取組を更に充実させていきたい。

2　学習の見通しをもつことや、学び合いの充実、学習の振り返りについて、昨年度よりも4の段階が減少している。教員の回答からも更なる指導の工夫改善が必要である。

3　「研究主題に基づく授業改善」についての肯定的回答が昨年度と変わらないが、4の回答の割合が減少している。授業での共通実践を大切にしながら、授業を見合う会や校内研修会、授業研究会等を通して、課題意識を高める導入や効果的な学び合い（樹林タイムD･F）、発問や指示、個に応じた指導、振り返りの充実等の工夫改善に努め、基礎的･基本的な内容の確実な定着を図りたい。

ア 生徒の状況	自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
		きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
		良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
		おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
		やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
		努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅳ　健康と体力

生徒の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
食や運動を通して健康や体力への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	望ましい生活習慣の確立をするため、生徒たちはある程度メディアコントロールができているようだ。SNSの利用についても大きな問題はないようだが、今後もモラル教室等を通じて啓発していく必要がある。部活動の地域移行に関して、どのように進んでいくのか見通しをもって取り組んでいく必要がある。勝利至上主義ではない、学校部活動としてのよさも大事にしてほしい。今後は学校側と外部指導者との連携も大切になってくるだろう。
	年度			

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

相談できる環境を整えるために、定期的な教育相談に加え、日頃から生徒一人一人に目を配り、受容的な関わりを心掛けることが大切である。また、生徒同士が互いに悩みを相談し合えるよう、日々の活動を通して共感的な人間関係づくりや心の居場所づくりなどを充実させていきたい。

部活動について、生徒と保護者の回答に2や1の段階が一定数ある。また、教員の2の段階が25%もある。部活動が地域へ移行されていく過渡期だからこそ、部活動運営について、学校として再確認していきたい。

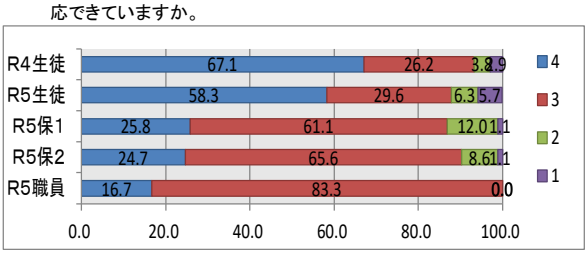
生活習慣の確立や質の向上のためには、諸調査のタイミングでのタイムリーな指導や、宿泊研修等の校外活動でのリアルタイムな指導が効果的である。指導のタイミングを逃さないよう、職員と保護者が連携して組織的に取り組んでいきたい。

【年度（→次年度）】

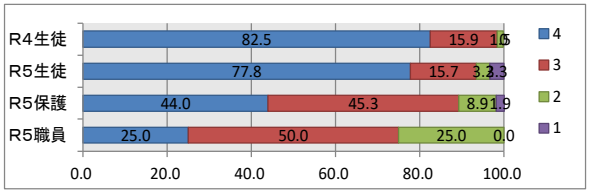
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		自己評価B 後期	
8　保健活動の状況	(13)心と体の健康に向けての取組	・教育相談の実施と職員間の情報共有・チーム対応 ・望ましい生活習慣の確立を目指した保健指導の取組（メディアコントロールアンケート等の活用） ・健康意識の向上を期した掲示環境の整備	3	3		
9　部活動の状況	(14)主体的実践力・共感的協働力を育てる部活動	・目標の実現に向けた主体的、共感的・協働的な活動への指導・支援と見届け ・人間的基礎力（JAKS）育成	3			

（主なデータ）

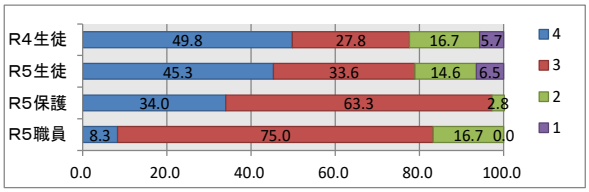
生　悩み事があったり、困ったりしたときに相談できる人はいますか。
保1　学校は、生徒や保護者の悩みや相談に耳を傾け、誠実に対応していると思われますか。
保2　学校は、問題行動に素早く対応し、いじめ等の未然防止に取り組んでいると思われますか。
職　生徒の様子を細かに観察し、問題がある場合は素早く誠実に対応できていますか。



生　部活動へは、自分の目標に向かって意欲的に参加できましたか。
保　お子さんは、部活動に目標をもって意欲的に取り組んでいると思われますか。
職　部活動において、生徒の目標実現を支援していますか。



生　「早寝、早起き、朝ご飯」など望ましい生活習慣が実践できていますか。
保　学校は、保健便りや生徒指導便りを通じて生活習慣改善のための情報を発信していると思われますか。
職　小中連携にかかる共通実践事項（自立プラン、目指す授業の形、学習の約束）はねらいどおり実践されていますか。



【保健室前の健康意識向上のための掲示】

【大北総体　野球　優勝　全県大会出場】

【大北総体　卓球　準優勝　全県総体第3位】

■データから見える成果と課題

1 「相談できる相手の有無」について、昨年度よりも肯定的な回答の割合が減少した。定期的な教育相談のほか、日頃から生徒一人一人に目を配り、受容的な関わりを心掛けることで相談しやすい雰囲気をつくる。また、生徒同士が互いに悩みを相談し合えるよう、日々の活動を通して共感的な人間関係づくりや心の居場所づくりなどを充実させていきたい。

2 「部活動への意欲的な取組」について、90%以上の生徒が肯定的な回答をしている。目標をもって意欲的に取り組んでいる生徒が多い。活動を通して、主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情の育成につながるよう、保護者の理解や協力を得ながら指導や支援に当たっていきたい。

3 R4に実施した県ライフスタイル調査の結果では、「朝食を毎日食べる」割合が県平均の86%に対して、本校生徒は、82%と県平均を下回っている。睡眠時間は県平均をわずかに上回っている。保健体育の授業や保健委員会の啓発活動、メディアコントロール週間の実施等を通して継続した指導を行っていきたい。さらに、家庭との連携を密にして毎日の生活状況を把握し、望ましい生活習慣の確立に向けて組織的に取り組んでいきたい。

ア 生徒の状況					
自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅴ 組織運営

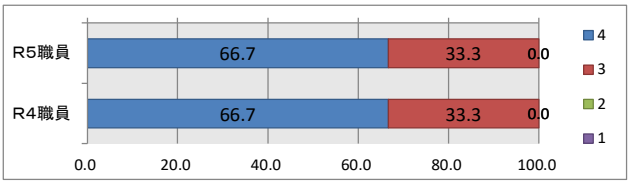
学校の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
教職員が学校教育目標及び重点事項等を踏まえた主体的、組織的な取組を行っている。	前期	良好	良好	校長がリーダーシップを発揮し、学校教育目標を教職員がしっかり理解した上で教育活動に取り組んでいる。ふるさとキャリア教育では、田っ中ソーランを軸としてさまざまな地域行事に参加し、生徒が主体的に活動している点も評価できる。ソーランリーダーを育て、踊りにかける想いを後輩たちが継承している。
	年度			

自己評価の概要と学校の改善策	
	【前期(→年度)】 昨年度同様、「学校教育目標及び重点等の共通理解及び実践」について、肯定的な評価である。これは、今年度、学校教育目標に加えて生徒会テーマも前面に掲げて、教育活動を行ってきたことで、職員と生徒が一体となって学校教育目標の具現化に向けて取り組む意識が高まったことが数値に表れていると感じる。「学校評価や行事等の評価・改善」や「各指導部長や、学年主任、各担当のリーダーシップの発揮、共通実践・評価・改善」 の項目については、肯定的な評価ではあるが4の値が昨年度より低くなっている。これは、実践し、評価した後の改善が十分に図られていない点があることによるものと捉えている。一方、各指導部や担当が前年度踏襲ではなく、目的に応じて、改善を加えて提案している点もあることから、その手段について、より持続可能で無理のない方法を検討していきたい。ふるさとキャリア教育については、生徒や職員も肯定的な評価は高いが、昨年度よりは若干低くなっている。田っ中ソーランや職場体験、地区ボランティアなど、今後、生徒が主体的に活動できる手立てを考えていく必要がある。

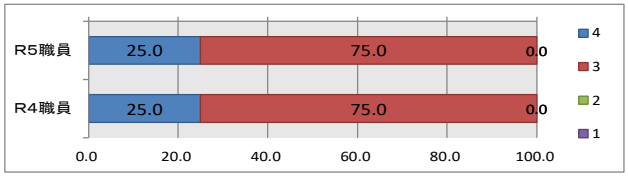
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		後期	
10 組織的な学校運営	(15)学校教育目標・目指す学校像・生徒像実現への取組 (共通理解・共通実践・凡事徹底・組織力を生かしたチーム対応)	・目標の実現のための三つの柱(確かな学力の育成、豊かな人間性と社会性の育成、「ふるさとキャリア教育」の充実)に基づく共通実践 ・目的と手段を明確にした教育活動の展開と全ての教育活動を通して一人一人が身に付ける資質・能力(JAKSを基盤とした人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情)の育成 ・目標の実現のための学校評価等の活用と改善	4	4		
11 教育課程の編成と実施・改善	(16)社会に開かれた創意ある教育課程の編成	・ふるさとキャリア教育を充実させる総合・特活・各教科との関連を図った計画 ・見通しのもてる年間計画・月計画・週計画の作成と運用	3			

(主なデータ)

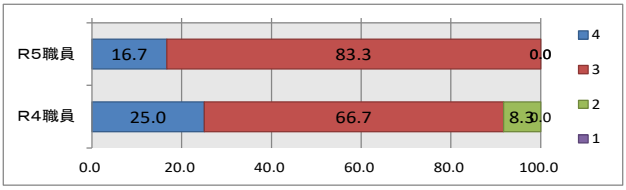
職　学校教育目標及び重点等の共通理解が図られ、共通実践されていますか。



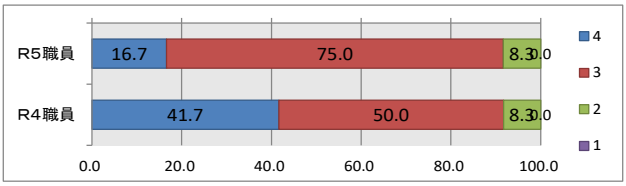
職　JAKSを基盤とした人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情の育成のために生徒指導の機能を生かした指導に努めていますか。



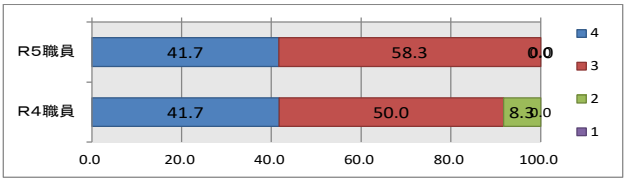
職　学校評価や学校行事等の評価･改善は適切に行われ、かつ目標達成や課題の改善がなされていますか。



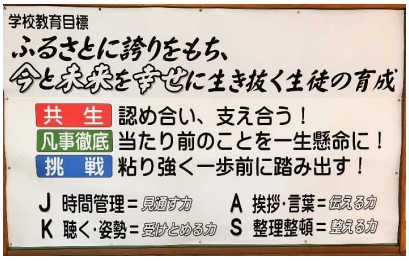
職　各指導部長や学年主任、各担当などがリーダーシップを発揮し、共通実践・評価・改善が推進されていますか。

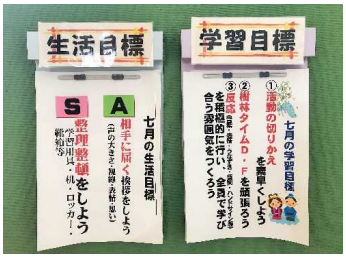


職　月行事予定や週計画(じゅりん)は教育活動の見通しをもてるものになっていますか。



【学校教育目標と月ごとの生活・学習目標の校内掲示による意識化】





■データから見える成果と課題

1 「学校教育目標及び重点等の共通理解及び実践」について、肯定的に捉えている職員が多い。共通実践については、目指す生徒の姿や教育活動の目的を明確にしながら適切な方法を検討し、各指導部、各学年部での連携を図りながら全職員で取り組んでいきたい。

2 職員会議、学年部会、指導部会で教育活動の実施状況を評価し、改善を図りながら次の実践につなげていくことを一層重視する。また、各指導部長や学年主任、各担当がリーダーシップを発揮するとともに、他の職員においても主体性をもって学校運営に参画することで組織の活性化を図りたい。

3 月行事予定や週計画は、反省を踏まえ、担当を中心に先を見通しながら立案に当たっている。昨年度に比べて肯定的回答の割合が増加している。引き続き、職員の声を生かし、組織的・計画的な教育活動の推進に結び付くよう工夫改善に努めたい。

4 「ふるさとキャリア教育」の視点をもって、それぞれの教育活動を相互に関連付けるとともに、保護者や地域の方々との連携・協働を進めることで、郷土愛の醸成と地域貢献力の更なる向上を図りたい。

イ 学校運営の状況					
自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅵ 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	おおむね良好	良好	学校報やブログを通じた情報発信は十分に行われていると評価できる。地域・保護者が連携して実施している田代岳登山も大事な取組だが、ここ数年中止になっていることを考え、時期の変更をお願いしたい。平滝・五色の滝をめぐる自然学習も、地域のよさを実感するための取組として期待している。
	年度			

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

今年度も学校の教育方針や学校行事における生徒の活躍の様子について、学校報や学校HP、学校ブログ、連絡メール等で情報発信を継続してきた。保護者の95%が肯定的な回答をしているが、昨年度よりも4の回答が減少している。今後も生徒が活躍している様子を捉え、タイムリーに情報発信していくのはもちろん、情報の質を向上させることを念頭に取組を継続していきたい。

地域・保護者との連携についても、保護者の95%が肯定的な回答をしているものの、昨年度より4の回答が減少している。各町内で行われている地区ボランティアでは、たくさんの保護者や地域の皆様に御協力いただき、学校と地域・保護者が連携・協働する活動として定着してきている。今後はその内容を精査し、地域により貢献できる活動に昇華していきたい。恒例の田代岳登山に関しては、天候に恵まれず2年連続の中止となってしまった。開催時期の見直しを図り、来年度につなげていきたい。また、今年度は新たに2年生を対象とした平滝自然観察林・五色の滝自然学習を計画している。五色湖周辺の開発を進めている大館市観光課とも連携し、ふるさとの豊かな自然に触れる機会としたい。

【年度（→次年度）】

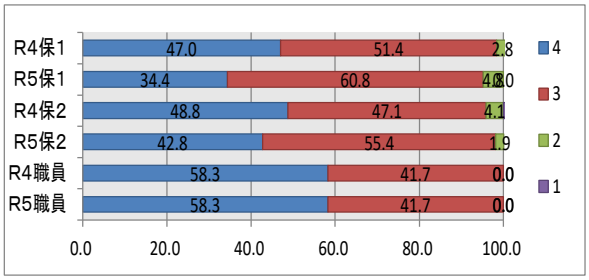
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		後期	
12 情報の受発信と学校開放	(17)広報活動の充実と学校開放	・学校報、メールでの保護者への情報発信 ・HPを利用した地域・社会への情報発信 ・学校開放の実践（保護者・地域）	4	3		
13 地域の教育力の活用	(18)地域・保護者等と連携・協働した教育活動	・PTA活動の充実や地域学校協働本部事業の活用 ・地域及び学校間の連携・協働のための連絡調整と活動の促進	3			

（主なデータ）

保1 学校は教育方針や教育活動についてPTA総会、学校行事、学校報を通して分かりやすく伝えていると思われますか。

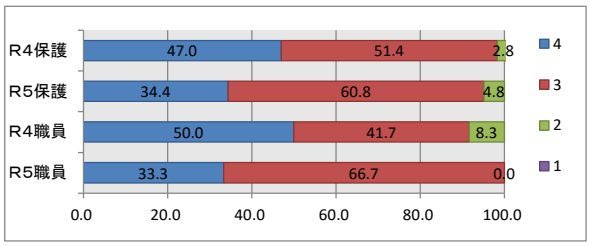
保2 学校は学校報、HPや学年通信等を通して、生徒の様子を積極的に情報発信していると思われますか。

職 学校の取組に理解協力を得るために積極的に情報発信していますか。



保 学校は、地域、保護者との連携を大切にした取組をしていると思われますか。（PTA、地域での活動等）

職 地域、保護者との連携を大切にした取組を心がけていますか。（PTA、地域での活動等）



【学校報・学年通信による情報発信】

【HP・ブログによる情報発信】

【大川美紀さんによる田代岳自然学習】

【元気なたしろ盛り上げ隊の協力による農園活動】

■データから見える成果と課題

1 「教育方針や生徒の活動等に関わる情報発信」について、95%以上の保護者が肯定的な回答をしている。保護者や地域の方々の理解や協力を得るために、学校の様子や教育活動の分かりやすい情報発信の在り方について、様々な視点から吟味し、更に充実させていきたい。

2 「地域、保護者との連携」について、昨年度よりも4の回答の割合が減少した。PTAの各部会ごとの活動のほか、職場見学や職場体験、地区ボランティア会議及び活動等、保護者や地域の方々との連携・協働の下で行ってきた。また、昨年度に引き続き、十ノ瀬藤の郷の見学や地域活性化に取り組む団体の協力による農園活動を行っている。今後、既存の活動を更に充実させることができるよう、その方策を検討したい。